

2023 年度

# 高校生国際協力実体験プログラム

## 報 告 書

2023 年（令和 5 年）

7 月 25 日～7 月 26 日



独立行政法人 国際協力機構  
九州センター（JICA九州）

## <目 次>

1. はじめに .....	1
2. 高校生国際協力実体験プログラム報告	
【第1日目 7月25日】	
開 会 式 .....	3
アイスブレイク・自己紹介 .....	4
国際協力計画づくり .....	6
JICA 研修員との交流会 .....	9
【第2日目 7月26日】	
朝のウォームアップ体操 .....	12
国際協力計画発表、振り返り .....	14
閉 会 式 .....	17
参加校一覧 .....	18
スタッフ一覧 .....	19
3. 添 付 資 料	
・ 高校生国際協力実体験プログラム募集要項 .....	20
・ アンケート集計結果（参加生徒・教員） .....	29



# 1. はじめに

## 【事業の概要】

1996年より JICA 九州は九州地区在住の高校生を対象に、開発途上国への理解を深めることを目的とした「高校生国際協力実体験プログラム」を実施しており、今回で27回目を迎えた。

本年度は九州7県33校からの応募があり、書類選考を行った。結果、7校を合格とし、計35名（生徒28名、教員7名）が本プログラムに参加した。

参加生徒28名の内訳としては1年生が5名、2年生が15名、3年生が8名であった。

事前学習として各県国際協力推進員が参加校を訪れた。JICA事業の紹介を行った他、参加する生徒達に、「学校紹介」と「国際協力」をテーマとしたウェビング\*によりイメージを可視化してもらった。

プログラムは7月25日と26日の2日間、JICA九州にて実施された。初日はアイスブレイクで緊張をほぐした後、元 JICA 海外協力隊による体験談、国際協力計画作り、および JICA 研修員受入事業により各国から来日している JICA 研修員との交流会等を行なった。2日目は JICA 九州職員の前で国際協力計画発表を行った。

生徒・教員のアンケート結果からは、プログラムに対する満足度が高いことが伺えた。生徒達の意見としては、「他国の文化に触れることができ、貴重な経験になった」、「同じ高校生でも考えていることや思いも様々だったので、視野を広げることができて嬉しかった」などがあった。

プログラム全体を通しての参加者の評価は以下の通りである。

## 【アンケート結果】

・2日間を通してプログラムの内容の満足度は何%でしたか（生徒27名・教員7名回答）

満足度 (%)	100 以上	90 ~ 99	80 ~ 89	70-79	70 未満
人数	18 人	14 人	1 人	1 人	0 人

回答者の9割以上が90%以上の満足度を示しており、70%未満の回答は無かった。このことから、今回のプログラム内容が充実したものであり、参加者の期待に応えられていたことが伺える。

満足度100%以上の参加者の意見としては、「今まで自分が考えてもみななかったこと、考えようとしてこなかったことを考える時間がたくさんあって学びが本当に多かった」、「研修員の方との交流で、その国について知ったり英語を話したり、聞いたりするのが、英語は苦手だけどとても楽しかった」、「漠然としたイメージしかなかった国際協力というものが、具体的なイメージを持つものとなった」などの意見があり、自分自身の成長、学びについての記述が多く見られた。

一方で、満足度が100%ではない理由として、「海外の人と話せなかった。もっと自信を

つけたい」、「もっともっと自分を成長させなければならないということで、99.9%にさせていただきます」などの意見があった。

参加教員からの要望や改善点としては、「体操やかまど作りなど、実際に協力隊の活動をやってみると座学ばかりにならず楽しいかもしれません」との意見が挙げられた。今後も今回の要望等を踏まえながら、より良いプログラムを実施していきたい。

#### ※「ウェビング」

一つの題材・単語（本プログラムの場合は「学校紹介」と「国際協力」）を中心として、その題材から連想できるものを書き出していき、周りに網の目のように線でつなげていく方法。グループ内での各個人の意見を共有し、課題抽出や課題解決などの計画策定に用いられる手法。

## 2. 高校生国際協力実体験プログラム報告

### 【プログラム名】

### 開 会 式

担当： 原口 純一（(特活)九州海外協力協会）

#### (1) ね ら い

- ・ プログラムの開会をもって参加への意識を高める。
- ・ プログラムの目的および意義を確認することでより効果的なプログラムを目指す。
- ・ プログラム運営スタッフを紹介し、JICA 海外協力隊経験者の存在を認識する。

#### (2) 概 要

「高校生国際協力実体験プログラム 2023」を開催するにあたり、JICA 九州・吉成安恵 所長が開会の挨拶を行った。JICA が実施している国際協力事業についての説明を行った後、本プログラムの意義、プログラム中だけでなく事後もプログラムで得た気づきや学びを深めてほしい、という参加者への期待を述べた。開会挨拶後、2 日間を共に過ごすスタッフ（九州各県の国際協力推進員、(特活)九州海外協力協会職員）が挨拶、自己紹介を行った。



(開会挨拶の様子)

## 【プログラム名】

### アイスブレイク・自己紹介

担当：原口 純一（(特活)九州海外協力協会）

#### (1) ねらい

- ・ プログラムの最初に参加者同士の交流を深め、お互いを知る。
- ・ 積極的参加の姿勢を自覚してもらう。
- ・ 自由な自己表現を引き出し、受け入れられる雰囲気作りを行う。

#### (2) 概要

##### <アイスブレイク>

「行きたい国や場所は？」や「好きな映画は？」などの質問が水色や黄色などの色文字で書かれたカードを用いて、参加者同士が交流するゲームを行った。内容は、ペアになる人を見つけ、お互いに学校名・名前・ニックネームを伝えた後、相手のカードを引き合い、カードに書かれた質問に答え、3枚のカードの色が揃ったらゲームクリアというもの。カードに書かれた質問内容を通して、他県からの参加者同士がお互いを知るきっかけとなるようにした。

##### <学校紹介>

事前学習時に作成した「学校紹介」のウェビングを用いて、各校1分30秒で参加者の自己紹介と学校紹介を行った。

#### (3) 参加者からの声

##### 【生徒】

- ・ 自分の県以外の高校のことを知れて、より視野が広がりました。初めて会う人たちでもアイスブレイクを通して距離を縮めることができたので良かったです。
- ・ どうしても初対面の人と話すとき、話しかけるのを躊躇してしまうので、思い切って話しかけることの大切さを学びました。外国の方とのコミュニケーションは第一印象や挨拶が大事と聞いたので、今回のアイスブレイクをきっかけにたくさん話しかけたいと思いました。また、どの学校もその学校なりの特色があり、県外の高校生との交流は初めてだったので、とても新鮮でした！
- ・ 最初は初めて話す人ばかりで緊張していたけど、カードをそろえようと熱中しているうちに、たくさんの人と話ことができ、とても楽しかったです。

##### 【教員】

- ・ カードがあるだけでとてもスムーズに対話が進められることに驚きました。ぜひ校内でも実施させていただこうと思います。
- ・ 各県各学校のことが知れてよかった。それぞれの地域についてももっと知りたくなる内容でした。

- ・ 自然に多くの人と会話をするきっかけができてよかった。またトピックがあることもアイスブレイクとしてはやりやすかったです。



(アイスブレイクの様子)



(学校新聞を用いた学校紹介)

## 【プログラム名】

### 国際協力計画づくり

担当： 鬼丸 武士（福岡県国際協力推進員）

石川 洸（佐賀県国際協力推進員）

小田 智子（長崎県国際協力推進員）

## (1) ねらい

JICA 海外協力隊になりきり、村をよりよくするための活動計画作りを行うことで、

- ① 現地の人びとにとって本当に必要な支援とは何かを考える
- ② JICA 海外協力隊として村人を巻き込んだ計画を立てる

## (2) 概要

### 【設定】

架空のウエストティモール国バリボ村（以下、バリボ村）でコミュニティ開発隊員として派遣される設定で、国の情報から現地の課題や問題点を洗い出し、グループに分かれ2年間の活動計画を立てる。活動内容の要請は「現地の伝統や文化を尊重しながら、ともにより良い村づくりに協力すること」である。

### 【導入】

プログラム全体の説明を行い、「JICA 海外協力隊とは」「職種（コミュニティ開発）について」「発表ルール」「評価項目」について説明。活動計画を作成する上での考慮事項として、「実現可能性」「妥当性」「持続性」「独自性」をあげ、この4つの観点が翌日に行われる計画発表の評価項目となることを伝えた。また計画発表のプレゼンテーション対象者はバリボ村の村人を想定することを合わせて伝えた。

派遣されるバリボ村の概要を把握するため、フォトランゲージ\*を用い写真で村の様子を見ながら気づきをグループ内で共有した。

### ※「フォトランゲージ」

写真を見て「この国はどこ国だろう?」、「ここに写っている人はどんなことを感じているのだろう?」といったことを考えたり、その土地の特徴を表すものを探したりすること等で、様々な角度から写真に写る内容を推察する手法。

### 【JICA 海外協力隊の活動事例紹介】

発表者：佐賀県国際協力推進員 石川 洸（セネガル共和国 / コミュニティ開発）

### 【村の情報分析、課題抽出、優先順位づけ】

最初にバリボ村の概要を読み込み、村の現状や関係者を調査し、地域の良い点・課題点を洗い出し、ポストイットへ記入、グループで共有を行った。

ダイヤモンドランキング<sup>※</sup>を用い、グループ内で課題事項の優先順位をつけ、課題解決のためのアイデア出し、良い点をさらに良くするためのアイデア出しを行った。

#### ※「ダイヤモンドランキング」

9つの選択肢を優先度が高い順に、ひし形に並べ順位付けをする手法。本プログラムの場合は地域の課題点の中から9つを選択し、必要度が高いもの順に順位付けを行った。

#### 【活動計画作成】

「活動計画名」「対象者」「協力者」「村の現状」「活動内容」「目指す村の将来のイメージ」を取り入れた計画作りを、各グループ内でディスカッションをしながら進めた。

#### 【JICA 在外事務所（企画調査員）の配置】

JICA 海外協力隊の良き相談相手として、ボランティア業務のサポートをする企画調査員を配置。JICA 九州職員 2 名の協力のもと、生徒の活動計画作成中の質疑に対応した。

#### 【各県先生方との意見交換（JICA 九州の事業紹介）】

プログラムの途中で教員を対象に、JICA 九州の開発教育・国際理解教育支援事業で実施している各プログラムの案内及び、各校での取り組みについて意見交換会を行った。

### (3) 参加者からの声

#### 【生徒】

- ・ 県も違う人との交流でしたが、企画が始まっていくうちに、お互いにどんどん意見を出し合えるようになったので良かったです。また最初は課題を解決する手段だけを考えていましたが、そのためのお金をどう作るかまで考えないといけないところから、他の課題も改善される方法を見つけ出した時とても楽しかったです。
- ・ 問題点がたくさんありすぎて、どのように優先順位をつけたらいいのかが分からなくて難しかったです。対策をとる対象者や協力者まで絞って考えるのは初めて知りました。
- ・ 問題とそれの解決案、そして優先順位をすべて可視化することで自分が思っていた以上に考えを持っていたことや、逆に足りない場所も見えてきて、全てにおいてとてもためになりました。
- ・ 時間が短い中で、同じ志を持った高校生の皆さんと1つのことを一生懸命に考えて、1つのものをつくるという、学校では経験できないことをさせてもらえて、自分の価値観が本当に180度変わりました！
- ・ 村のいいところをさらに伸ばすことで、他分野の問題解決に繋がることを学びました。

#### 【教員】

- ・ 段階を踏んで考えていたので、生徒にとって取りかかりやすかったと思います。ま

た、実際に協力隊として活動した方のお話も聴くことができ、かなり具体的なイメージが膨らんだと思います。本校の生徒は他校の同年代の生徒との関わりがほぼないので、良い刺激をもらえました。

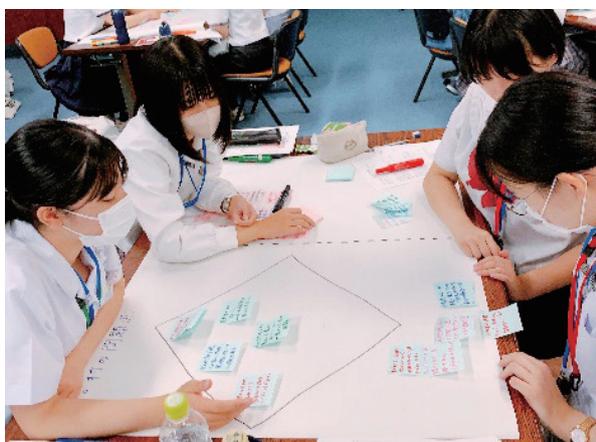
- ・ 実際に協力隊員として現地に行った人達の話はとても参考になったと思います。多くの事例を聞くことで異文化理解にもつながり興味もさらに湧くと思います。仮想のシチュエーションだったが、さらにリアルな例でも全然かまわないと感じました。
- ・ 今までに学校でも考えることがなかったような難しいテーマなので、生徒も解決法が何をすべきかがわからず悩んでいるようでした。しかし、それで困るというよりは、なんとか良いアイデアがないかとグループで意見を出し合っている様子が見えたので、とても良い活動になったと思います。
- ・ いままで国際貢献につながる仕事をしたいと思っていた生徒たちにとって、具体的なミッションに取り組むことができ、とても頭と心を使うことのできた企画でした。人見知りする生徒たちもおりましたが、同じ班の仲間たちととてもよい協働ができていたようです。



(導入説明)



(村の写真をもとにフォトランゲージ)



(村の良い点・情報分析、課題抽出)



(企画調査員への相談)

## 【プログラム名】

### JICA 研修員との交流会

～研修員の国・文化を知り、世界の料理を味わおう～

担当： 原口 純一（(特活) 九州海外協力協会）

宮原 良美（(特活) 九州海外協力協会）

## (1) ねらい

- ・ 研修員との交流を通して異文化への理解を深める。
- ・ 十分に言葉が通じない相手とのコミュニケーションを体験し、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 相手を理解しようとすることの大切さや意義に気づき、日常生活へも通じることに気付く。
- ・ 世界各国の食卓事情や料理を味わうことで、食文化の違いを理解する。

## (2) 概要

JICA 研修員 1 名が生徒の各グループに入り、自己紹介や研修員の母国についてのインタビュー及び発表を行った後、交流食事をを行った。

## 【参加研修員】

JICA 研修員 4 名

出身国：トンガ、パラグアイ、フィリピン、ベトナム

在籍大学：九州工業大学、早稲田大学九州キャンパス

## 【流れ】

- ・ プログラムの趣旨説明
- ・ JICA 研修事業、研修員について動画を通して概要紹介（YouTube『研修員受入事業 60 年 - 日本の経験・知見を伝える - ダイジェスト版』）
- ・ 全体での研修員紹介
- ・ 全体でのアイスブレイク（「各国の挨拶を知ろう！」: 研修員の母国語で「こんにちは」と「ありがとう」を練習）
- ・ 研修員の母国の食べ物、スポーツ、民族衣装、観光地等についてインタビュー。各研修員に 5 分×4 サイクルでインタビューし、聞き取った内容を生徒が全体発表
- ・ 夕食（研修員の母国の料理を含む、エスニック料理）のメニュー紹介
- ・ 終了後、研修員を交えて集合写真を撮影、研修員のお見送り

## (3) 参加者からの声

### 【生徒】

- ・ 同じ英語でも発音が全く違って、聞き取ることは難しかったですが、その場の雰囲気

気と研修員さんの笑顔でとても楽しめました。恥ずかしがらず、間違ってもいいから何でも聞くことが大切だと学びました。

- ・ 私は英語が苦手なことを言っているとは全くわからなくて少し悲しかったけど、JICA 研修員の方と一緒にいた生徒さんも、英語ができない私にやさしく声をかけてくれたり、すごくフレンドリーで各国のあいさつやありがとうなど食べ物や衣装が学べたりして嬉しかったです。
- ・ 研修員の人たちと会話を楽しめたという点ではとても満足したが、リスニング力がまだ足りず、自分が質問した内容も大事なところは分かりましたが、話全体で見ると理解できた部分が少なかったのもっと英語の聞く力また話す力を身につけなければいけないと感じました。また、研修員さんから英語学習について詳しく教えていただいたので日頃の学習に繋げていきたいと思います。
- ・ 実際に他国から来た人と話すことによって、他国と日本が本当にどれだけ違うのかを知ることができたと思います。僕もいつかそれぞれの国に行きたいと思います。

#### 【教 員】

- ・ 高校生の年齢で外国の方々との交流はとても貴重な経験になったのではないかと思います。英語で話をするだけでなく、いろんな国々の文化に触れ、これまで当たり前だと思っていたことが、実はそうではないのだということ、授業や本ではなく、実際に会話の中からリアルなものとして理解できたのではないかと思います。
- ・ JICA の皆さんと広く知り合うことができ、よい機会となりました。互いに win-win の関係になるようなプロジェクトをやっていけたらと思います。また生徒がイメージしている国際系の進路についてもお話を聞くことができ、大変参考になりました。
- ・ 生の声で他国の文化に触れることができ、貴重な経験になったと思います。お時間が可能であれば、任意交流の時間もいらしてほしかったです。また、事前のこちらの指導の問題ですが、本校の生徒には「正しく」英語を使うことにこだわるのではなく「伝える伝える」英語にこだわってもっと積極的に関わってほしかったです。



(JICA 研修員の自己紹介)



(JICA 研修員へのインタビュー)



(インタビュー内容発表の様子)



(エスニック料理を囲み交流)



(JICA 研修員との集合写真)

## 【プログラム名】

### 朝のウォームアップ体操

担当： 鬼丸 武士（福岡県国際協力推進員）

仮屋 慶一（鹿児島県国際協力推進員）

#### (1) ねらい

- ・ 海外の挨拶を通して、異なる文化や言語に触れる機会を提供し、国際的な視野を広げる。
- ・ 普段触れることのない国の言葉に触れることで、新しい言語への興味・関心など、海外の人とのコミュニケーションや言語習得の意欲向上に繋げる。
- ・ 体を動かすことによる集中力や発想力の向上。

#### (2) 概要

##### <外国の言葉で挨拶>

複数の外国の挨拶の言葉のうち、一つの国の挨拶が書かれた「あいさつカード」を参加者に配布、互いに書かれた挨拶をし合い、同じ挨拶の仲間を見つけていく流れで行った。グループができたなら、その言葉に含まれる意味などを各グループ内で共有したのち、各グループから1名その内容について発表を行った。

##### <アラビア語ラジオ体操>

JICA 海外協力隊が作成したアラビア語版のラジオ体操で、体を動かしウォームアップを行った。

#### (3) 参加者からの声

##### 【生徒】

- ・ 様々な国の言語があって、現地のリアルなあいさつまで知ることができて良かったです。英語以外に学びたい言語を見つけて取得出来たらいいなと思います。
- ・ 国によって、また地域によってたくさんのあいさつがありましたが、どの国もあいさつを大切にしているのが伝わりました。
- ・ 同じアラビア語でも国によって返事の発音が微妙に違うことがあって面白かった。
- ・ この体操を実際にやっていたということから、計画作りの改善点を見出せました。あと朝少しでも体を動かすと、とても気持ちよかったです。

##### 【教員】

- ・ アラビア語のラジオ体操は新鮮でいいリフレッシュになりました。また顔を見て大きな声であいさつをするのはいいですね。
- ・ 頭と心と身体がよくほぐれました。挨拶カードのアイスブレイクが良かったと思います。



(言葉の背景等を説明する国際協力推進員)



(ウォームアップ体操の様子)

## 【プログラム名】

### 国際協力計画発表、振り返り

担当： 鬼丸 武士（福岡県国際協力推進員）  
小田 智子（長崎県国際協力推進員）  
原口 純一（(特活)九州海外協力協会）

#### (1) ねらい

##### <国際協力計画発表>

- ・ 大勢の人に対し発表する経験を通じ、自分の考えを伝えること、人の話を聞くことの大切さに気付く。
- ・ 他のグループの発表や意見を聞くことで自分にはない視点を知り、国際協力に対する理解を深める。

##### <振り返り>

- ・ 2日間のプログラムを多角的に振り返ることで学びを整理する。

#### (2) 概要

##### <国際協力計画発表>

まず、発表に関する注意事項として、発表や質疑応答の時間配分、全員が発表に参加すること、発表対象は現地の村人であることを重ねて確認した。続いて、投票は評価シートを基に行うこと、採点方式は実現可能性・妥当性・持続性・独自性（プレゼン・表現力を含む。）の4項目の5段階評価であることも再確認した。

活動計画の発表は、6グループが順番に行った。最終的に、上位3グループを表彰した。入賞した3チームへはJICA九州・吉成安恵所長から記念品を贈呈した。最後にJICA九州・市民参加協力課・齋藤克義課長より講評が行われた。

##### <振り返り>

最初に各校教員より生徒の発表を見て、今の気持ち・気付きや感想等を1分程度ずつで共有いただいた。

その後、発表グループ毎で10分間、次に学校毎で20分間の時間をとり、2日間のプログラムを振り返った。前者では、発表グループ毎で過ごす時間はこれが最後になることから、「仲間に気持ちを伝える時間」の位置付けで、気付き・学びや感想等をグループ内で伝え合った。後者では、事前学習で作成したウェビング（テーマ：「国際協力」）を基に、2日間を通して得た新たな学びについて、追加で書き足していくワークを行った。その後、本プログラム参加前後を比較し、自分自身の変化・考え方の変化・新たな学び等をグループ内で共有した。最後に各校リーダーが代表で全体に対し、プログラムの感想や学びを共有し、締め括りとした。

### (3) 参加者からの声

#### <国際協力計画発表>

##### 【生徒】

- ・ まとめていく中で新しい発見や、アイデア、変更点も生まれてきて、考えれば考えるほど難しいなと思いつつも、どんなことをしたら村の人々が喜ぶか等を考えるのが楽しかったです。
- ・ JICA 海外協力隊隊員が帰っても現地ですることができるのかという先を見据えた計画や、現地の方は本当に必要としているのか考えられてよかったです。
- ・ まとめるのはとても難しく、皆でアイデアを出し合って計画作りをすることができたので良かったです。計画発表は緊張したけど、自分の言葉で伝えることができて良かったです。また、たくさんの班の計画を聞いて、自分の考えの狭さを知れたので良かったです。
- ・ 2年の間で何でもかんでもはできないから選択し、やりたいことに一貫性を持たせることが難しかったです。「伝える」ことや「やりたいと思わせる」ことも難しかったです。自分も楽しむことが必要だと思いました。

##### 【教員】

- ・ 短い時間でよくまとめられていたと思います。また、発表の際には JICA の方々に聞いていただき、なおかつ鋭い質問をいただけて、それを考えるところも計画作りだと思いました。
- ・ 生徒たちが答えのない問いに協働的に取り組む姿がとても素晴らしかったと思います。教育のひとつのモデルケースを見せていただきました。
- ・ このプログラムのメインの計画発表について、これからの日々の学習や進路を考えるととてもよい内容であったと思います。1つ、提案は、発表が皆「衛生」というところに寄った気がするので、前日のインプットの段階で、協力隊経験者の方々の各分野での現地での取り組み(=手段)を提示していただくと、アイデアもより広がったと思います。



(発表練習の様子)



(活動計画発表の様子)



(各校教員からのフィードバック)



(ウェビングに追加記入)

【プログラム名】  
閉会式

担当：原口 純一（(特活)九州海外協力協会）

(1) ねらい

- ・ 閉会の挨拶により、本プログラムの締め括りをする。
- ・ 事後学習の実施を呼び掛け、各学校と各県国際協力推進員が継続した連携をもてるようにする。
- ・ 各自の考えを学校へ持ち帰った後の具体的なアクションへと繋げる。

(2) 概要

閉会式では JICA 九州・山口尚孝次長が閉会の挨拶を行い、プログラム参加への謝辞や、今後の取組への期待を述べた。その後、スタッフを含めた全員で写真撮影を行い、2日間の締め括りを行った。



(集合写真)

## 2023年度 高校生国際協力実体験プログラム 参加校一覧

< 7月25日(火)～7月26日(水) 生徒28名、教員7名 計35名 >

	県	立	高等学校名	生徒	1年	2年	3年	教員
1	福岡	県立	新宮	4		4		1
2	佐賀	県立	武雄	4		2	2	1
3	長崎	県立	島原	4	4			1
4	熊本	市立	必由館	4			4	1
5	大分	県立	津久見	4		2	2	1
6	宮崎	県立	宮崎大宮	4	1	3		1
7	鹿児島	県立	鹿児島中央	4		4		1
小 計 (人)				<b>28</b>	5	15	8	<b>7</b>

## プログラム実施スタッフ一覧

	所属	名前	任国	職種
1	福岡県国際協力推進員	鬼丸 武士	中東・ヨルダン	理学療法士
2	佐賀県国際協力推進員	石川 洸	西アフリカ・セネガル	村落開発員 普及
3	長崎県国際協力推進員	小田 智子	中南米・パラグアイ	音楽
4	熊本県国際協力推進員	尾上 香織	大洋州・トンガ	音楽
5	大分県国際協力推進員	井本 望	中南米・セントルシア	青少年活動
6	鹿児島県国際協力推進員	仮屋 慶一	アジア・モルディブ	体育
7	JICA九州 市民参加協力課	戸崎 千尋	アジア・スリランカ	高齢者介護
8	(特活)九州海外協力協会	原口 純一		
9	(特活)九州海外協力協会	中ノ瀬 寛明	アジア・インドネシア	環境教育
10	(特活)九州海外協力協会	川南 恵		
11	(特活)九州海外協力協会	宮原 良美		

### 3. 添付資料

#### 高校生国際協力実体験プログラム募集要項

International Cooperation  
高校生だけの限定プログラム

# JICA九州

## 高校生国際協力 実体験プログラム

### 2023

開催日  
7月25日火  
~26日水

応募締切  
5月19日金  
【必着】

「この夏、キミは  
JICA 海外協力隊になる！」

！ 新型コロナウイルス対策の状況に応じての制限や実施方法がオンラインに変更になる可能性があります。  
最新の情報についてはJICA九州のホームページにてご確認ください。  
<https://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/jittaiken/index.html>

主催：独立行政法人 国際協力機構 九州センター  
後援：福岡県教育委員会 佐賀県教育委員会 長崎県教育委員会 熊本県教育委員会  
(予定) 大分県教育委員会 宮崎県教育委員会 鹿児島県教育委員会  
福岡市教育委員会 北九州市教育委員会 熊本市教育委員会

独立行政法人 国際協力機構 

# 世界・仲間・自分、発見！

九州各地の高校生たちと  
世界を感じる2日間！

「JICA九州 高校生国際協力実体験プログラム」は九州各県から集まった仲間が1泊2日を共にし、世界と自分とのつながりを体感する、高校生のための国際協力入門講座です。

## プログラム

### 事前学習 6-7月(予定)

●各校もしくはオンラインにて実施

「国際協力」  
ってなんだろう？

「実体験プログラム」への参加前に、各地の国際協力推進員と一緒に国際協力について考えてみよう。

### DAY1

### 多様な文化に触れる

九州各地から集まった仲間たちと親睦を深め、JICA海外協力隊経験者との交流や世界の料理を楽しもう！

Time Table (予定)

11:00～	開会式	13:00～	国際協力計画作り
11:10～	アイスブレイク、 自己紹介	16:30～	JICA研修員との交流会
12:00～13:00	昼休み	18:00	終了

・アイスブレイク・



・国際協力計画作り・



● プログラムはJICAボランティア経験者である九州各県デスクの国際協力推進員たちがサポートします。

JICAデスク 福岡

JICAデスク 佐賀

JICAデスク 長崎

JICAデスク 大分

JICAデスク 熊本

JICAデスク 鹿児島

問い合わせ先

(特活)九州海外協力協会 担当者

kaihatsukyoku@npo-kyushu.or.jp

TEL:093-671-8678 FAX:093-671-0979

## 事前に知っておこう！

### JICA（ジャイカ）とは？

JICA（国際協力機構）は、日本政府の開発途上国へのODA（政府開発援助）を行う組織です。

### JICA 海外協力隊って？

JICAが実施する海外ボランティア派遣制度です。開発途上国で現地の人たちと生活を共にし、貧困や環境など、その国の抱える課題に取り組みます。

### JICA 九州とは？

JICAの九州における国際協力の拠点です。開発途上国から日本の技術を学びに来た人たちのための研修施設もあります。

## ZDAY PROGRAM

### DAY 2

### JICA 海外協力隊になる

JICA海外協力隊になりきって、自分に何ができるか考えて発表してみよう。現地の人たちに本当に必要とされる支援って何だろう？

#### Time Table（予定）

9:00～ 国際協力計画作り	13:00～ 計画発表
12:00～13:00 昼休み	15:00～ 振り返り
	15:30～ 閉会式・写真撮影
	15:50 終了

※プログラムの内容や時間は変更する場合があります。

### 事後学習

●各校にて実施します

自分の変化を  
伝えよう！

「実体験プログラム」で感じたこと、考えたことを表現し、周りの人に伝えよう。

#### 計画発表



最後に記念撮影！夏の良い思い出となりました。

#### 記念撮影



新型コロナウイルス対策の状況に応じて、オンライン開催となる可能性がございます。

# JICA九州 高校生国際協力 実体験プログラム 2023

## グローバルな人材を育てる参加型の「学び」

- [ 国際理解 ] 世界の状況や国際協力の現状に気づき、理解を深める
- [ SDGsへの理解 ] プログラムを通じ、理解を深め、自分たちが身近にできることを考える
- [ 交流 ] 参加者や協力隊経験者との交流を通じ、国際協力にどう関わることができるかを考える
- [ 進路/生き方 ] 様々な生き方・経験に触れることで自分自身を見つめなおし、将来の進路選択に役立てる

### 日程

7月25日(火)～26日(水) 一泊二日  
※開催は1回のみ

#### プログラムの流れ

**事前学習** 6～7月に国際協力推進員が各校を訪問し事前学習を実施します。日程など詳細については各地の国際協力推進員にご相談ください。

**本プログラム** 2日間の全日程にご参加ください。

**事後学習** 例年の参加校はプログラム終了後、学校行事や各地の国際交流・国際協カイイベントなどで、本プログラムの成果を発表しています。また、参加した経験を活かした「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」への応募も推奨しています。詳細は各地の国際協力推進員にご相談ください。

### 会場及び宿泊場所

#### 独立行政法人 国際協力機構九州センター(JICA九州)

福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1(JR鹿児島本線八幡駅下車徒歩10分)  
TEL093-671-6311(代表) [www.jica.go.jp/kyushu](http://www.jica.go.jp/kyushu)  
※新型コロナウイルス対策の状況によりオンラインで実施の可能性があります。



### 参加条件

- 国際理解教育・持続可能な開発のための教育(ESD)・キャリア教育に積極的に取り組んでいる学校、又は今後取り組む意欲がある学校。
- 教員・生徒とも、事前・事後学習を含み、全プログラムに参加可能なこと。選考後の参加者交代は不可。
- 生徒の保護者より参加への同意が得られること。
- 生徒が過去に本プログラムに参加していないこと。
- 学校長より参加の許可が得られること。

### 募集数

- 九州7県から7校(九州圏内の国公立、私立の高等学校)  
※1校につき、教員1名、生徒2～4名(最大4名)での参加とします。参加希望校が定数を超えた場合は、応募書類、県のバランス、新規希望校の優先等を考慮して選考します。
- 最少開催人数:14名

### 留意事項

- プログラム参加費自体は無料となります。
- 昼食および夕食代は各自でご負担ください。
- 学校所在地からJICA九州までの往復交通費、宿泊費はJICA九州が負担します。
- お車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- プログラムへの参加に当たり、参加者全員、国内旅行傷害保険にご加入いただきます。同費用はJICA九州が負担します。万一事故が生じた場合、保険の給付範囲内で補償いたします。
- 宿泊先はJICA九州宿泊棟となります。
- 動きやすい衣服での参加をお願いします。
- 個人都合(部活等)によるキャンセルはご遠慮ください。
- 筆記用具、健康保険証の写し、および緊急時の連絡先をご持参ください。

新型コロナウイルス対策の状況に応じた制限や実施方法がオンラインに変更になる可能性がございます。最新の情報についてはJICA九州のホームページにてご確認ください。

<https://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/jittaiken/index.html>



### 応募方法

参加申込書をJICA九州ホームページよりダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の送付先まで郵送ください。

[ <https://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/jittaiken/index.html> ]

### 送付先

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1 JICA九州内(特活)九州海外協力協会

### 応募締切

2023年5月19日(金) [必着] ▶ 2023年6月16日(金) 迄に結果通知

### 2023年度参加校実績

福岡県 鞍手高等学校	熊本県 翔陽高等学校	宮崎県 延岡高等学校
佐賀県 唐津東高等学校	大分県 大分高等学校	鹿児島県 大口明光学園高等学校
長崎県 佐世保商業高等学校		

(学校用)

## JICA 九州高校生国際協力実体験プログラム参加申込書

参加日程	7/25~7/26		
ふりがな			
高等学校名	立		高等学校
学校住所	〒		
	.....		
	TEL		FAX

引率教師	ふりがな		担当 教科		性別	男 女		
	氏名							
	現住所	〒						
		TEL		FAX				
E-Mail			携帯					
生徒1	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生	性別	男/女
	現住所	〒						
生徒2	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生	性別	男/女
	現住所	〒						
生徒3	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生	性別	男/女
	現住所	〒						
生徒4	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生	性別	男/女
	現住所	〒						

学校所在地から JICA 九州までの交 通経路	(バスを使用される場合は、運賃と会社名をご記入ください)	
	学校最寄 ( )線( )駅、または( )バス会社	
	( )バス停→	
		→JICA 九州

※公共交通機関をご利用ください

上記の者が、JICA 九州の「高校生国際協力実体験プログラム」に参加することを承認します。			
高等学校名		日時	2023年 月 日
学校長		印	

【個人情報の取り扱いについて】

参加のお申し込みによって入手した個人情報は、本プログラム実施に係る業務のみに使用いたします。また、当該情報は当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することはありません。

送付先: 〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1 JICA 九州内

(特活)九州海外協力協会

## 参加申込書

独立行政法人 国際協力機構

九州センター 所長 殿

独立行政法人国際協力機構 九州センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

併せて、引率に当たっては、①九州センター在館期間を通して消灯・点呼を初め生徒の生活指導に当たること、②生徒のプログラムやJICA関係者との意見交換にも積極的に参加すること、③申し込み後の引率者変更をしないことについて承諾します。

なお、旅費については下記の口座<sup>(※)</sup>にお振込願います。

※口座は学校の公金口座または引率教師の個人口座のどちらでも構いません。

年 月 日

氏 名： \_\_\_\_\_

生年月日： \_\_\_\_\_ 年 月 日 年齢： \_\_\_\_\_ 歳

振込口座

銀行名		支店名	
口座番号	普通・当座		
ふりがな			
名義人			





## 参加申込書

独立行政法人 国際協力機構

九州センター 所長 殿

独立行政法人国際協力機構 九州センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

年 月 日

申込者氏名 : \_\_\_\_\_

生年月日 : \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 年齢: \_\_\_\_\_ 歳

親権者または

保護者名 : \_\_\_\_\_ (印)

本人との続柄 : \_\_\_\_\_

【参加にあたり心配事がある方はご記入ください(健康面、アレルギー等)】

※選考には影響ありません

1 日目（生徒用） 回答者数 27 名

[アイスブレイク・自己紹介]

満足度

(人)

満 足	23
やや満足	4
やや不満	0
不 満	0

感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 来たばかりの時はお互いに緊張していて固くなっていましたが、お互いに質問して答えたり、相手のことを知っていったりすると、だんだん打ち解けてきて、楽しく過ごすことができそうだなと思えるようになってきました。
- ・ 自分の県以外の高校のことを知れて、より視野が広がりました。初めて会う人たちでもアイスブレイクを通して距離を縮めることができたので良かったです。
- ・ 学校紹介を各校とも凝った内容を模造紙で作ってきていたので、とても良く知ることができました。
- ・ カードを使ってアイスブレイクをして、普段の自己紹介より楽しくできて、相手のことをたくさん知ることができたので良かったです。また、どの学校もテレビ出演や学校の特色を面白く発表していたので、すごいなと思い、私もこれからこのような機会があれば生かしたいと思いました。
- ・ 自己紹介はカードがそろわなかったのも悔しかったが、「長所は？」と聞かれてパッと出なかったので、(自分の)長所を探そうと思いました。

[国際協力計画作り]

満足度

(人)

満 足	19
やや満足	8
やや不満	0
不 満	0

感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 良いところと悪いところを組み合わせ良くしていくという考え方が新鮮でした。石川さんの話を聞いて、活動の中で自分で課題を見つけ行動することの大切さが分かりました。
- ・ みんなとても深いところまで考えていてすごいと思いました。僕は深く考えること

が苦手なので、みんなについて行くのが少し難しかったです。なかなか良い意見が出せなかったのですが、これからはもっと環境問題について調べたいと思います。

- ・ 県も違う人との交流でしたが、企画が始まっていくうちに、お互いにどんどん意見を出し合えるようになったので良かったです。また最初は課題を解決する手段だけを考えていましたが、そのためのお金をどう作るかまで考えないといけないところから、他の課題も改善される方法を見つけ出した時とても楽しかったです。
- ・ 4人の班のみんなの写真を見て気づいたことを書き出し、それらをまとめていく作業がとても難しかったです。話し合いながらまとめることができた時は達成感を感じました。
- ・ 違う学校の人の意見も知れて、自分の視野が広がったのでとても良い経験になりました。

### [JICA 研修員との交流会]

#### □ 満足度

(人)

満 足	19
やや満足	6
やや不満	2
不 満	0

#### □ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 普段、英語で会話することがないので良い経験になったし、自国の良さや魅力を伝えてくださって、故郷のことをよく知っていて、周りに伝えられるのがすてきだと思いました。同時に日本のことを知っておきたいなと思いました。
- ・ 本当に本当にいい体験ができました。自分の英語力のなさ、他の高校生のみなさんがペラペラと会話している姿を見て、自分もあんなりたいと思いました。英語の授業ではできないことなので貴重な経験でした。
- ・ 全然話せませんでした。悔しい。リーディング・リスニングにとどまらず、会話ができるようになりたいと強く思いました。
- ・ 英語で相手の国について知り、とても良かったです。もっと積極的に会話したかったです。
- ・ あまり自分から研修員の方々に質問することができなくて残念でした。周りのみんながとても研修員さんのお話を理解できていて驚きました。

#### □ 今日の感想や新しく知ったこと、もっと知りたかったこと、感じたことなどを聞かせてください。

- ・ 知り合えた仲間たちと国際協力について考えることができるとても良かったです。自分が思っていた以上に国際協力は奥が深くて難しいんだなと思いました。今後生活していく中で、自分が何をしたいかを考える機会を増やしていきたいです。

- ・今日は九州の各県から来た高校生と交流することで、自分の高校を客観的に見ることができたので、それだけで刺激がもらえました。国際協力計画を通じて、村の人たちの生活がこちらから見て課題に見える部分も現地の人から見れば楽しく過ごせたらいいから、特に改善しなくてもよいと考えるとごちゃごちゃになってしまうこともありましたが、良いところを伸ばすことでカバーすることが良いのではと思いました。研修員の人たちと話し、私たちは受け身で英語を使っていたことに気づきもっと自分から英語を発する場をつくらうと思いました。
- ・現地で言葉も少ししかわからずに1人だとしたら私は実際やっていけるのか分からないけど積極的に話してまずは何でもやってみることが大切だと学びました。今日の体験を生かしていろいろなことに挑戦したいと思います。
- ・ウェビングを使って、資料や写真を読み込み、新たな気づきを得られたことは、残りの高校生活や社会で何度も使えるし、役立てていけると思いました。
- ・国際協力計画作りで、自分ら協力隊が良かれと思ってやってることも、誰かにとっては損することかもしれないと考えなければならず、本末転倒にならないように、すごく考えて練っていきました。
- ・計画を作るとき、その村の伝統や信仰を守りながら計画を立てるのは難しいと感じました。

## 2日目（生徒用） 回答者数 27名

### [朝のウォームアップ体操]

#### 満足度

(人)

満 足	25
やや満足	2
やや不満	0
不 満	0

#### 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ アラビア語を初めて聞いて、右から左へ読むことを初めて知り、嬉しかったです。どの国でも運動を教えれば伝わるのではないかと思いました。私もアラビア語を学びたいと思いました。
- ・ アラビア語でラジオ体操は初めてだったので新鮮だったし、とても嬉しかったです。
- ・ 言語が違うだけで、体操の雰囲気が全然違ってとっても面白いなと思いました。
- ・ まだあまり関わっていなかった人たちと挨拶のグループで一緒にできて良かったです。
- ・ 「アユボワン」スリランカで行われる挨拶で、大切にされている言葉。平和を願う意味もあるのがいいと思いました。

## [国際協力計画作り・計画発表]

### □ 満足度

(人)

満 足	25
やや満足	2
やや不満	0
不 満	0

### □ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 発表するのは緊張したけれど、仲間が助けてくれたり、協力し合ったりして、無事にできて良かったです。
- ・ 面識のない他の県の高校生と(計画を)作るとなると、最初は本当に不安ばかりだったけど、たくさん話せて、自分の知らない知識をたくさん知っていて、いい発表ができてよかったです。
- ・ 悩むことも多かったですが、その考える時間も大切だったなと思います。自分にはない発想もたくさんあって、とても参考になりました。伝えたいこともいっぱい、伝える工夫も必要だと思いました。
- ・ まとめていく中で新しい発見や、アイデア、変更点も生まれてきて、考えれば考えるほど難しいなと思いつつも、村の人々が私たちのような生活をしてくれたら、どんな笑顔になるのか、とかどんなことをしてくれたら喜ぶとか考えると楽しかったです。
- ・ 上手くプレゼンができなかったことが悔しかったですが、グループの子との意見交換ができて良かったです。またそれぞれの計画発表がなるほど~と思うことばかりで、たくさん学べました！最後の班はプレゼンが特にすごく、内容もしっかりしていたので、今後の参考にしていこうと思います！

### □ 2日間を通して、このプログラム全体の満足度は\_\_\_\_\_パーセント (%)

(人)

100%以上	14
90-99%	11
70-89%	2
69%以下	0

### 満足度の理由

#### 【100%以上】

- ・ 新しい友達もできて自分の中のコミュニティの輪が広がったし、「国際協力」について具体的な活動することで、自分になかった見方、考え方ができるようになったからです。(100%)
- ・ 2日間色々な体験をして初めて知ったこともたくさんあったし、「国際協力」について再び考え直すいい機会になったからです。(100%)

- ・ 知らない学校の人と共に2日間1つの問題に取り組むのは、なかなかできない体験だったし、研修員の方との交流で、その国について知ったり英語を話したり、聞いたりするのが英語は苦手だけどとても楽しかったです。(100%)
- ・ 自分がJICA 海外協力隊になって何がしたいのかを明確化させることができ、また新しい自分と出会うキッカケになったからです。(100%)
- ・ いろいろな文化を知ることができ、話し合っって深く考えることができました。今まで自分が考えてもみなかったこと、考えようとしてこなかったことを考える時間がたくさんあって学びが本当に多かったです。(120%)

### 【90-99%】

- ・ のこりの0.1%はもっともっと自分を成長させなければならないということで、99.9%にさせていただきました。本当に今回のプログラムでは、多くのものを学び、得ることができました！(99.9%)
- ・ プログラムによって生まれた交流や課題を見つけることや国の文化の興味など刺激にあふれた2日間でした。異文化交流のときにもっと積極的に話しかければよかったとの後悔があります。(95%)
- ・ もっと計画をねりたかったという思いから-5%にしました。これまでよりも具体的に協力隊の活動を知ることができ、将来について考える良いきっかけになりました。(95%)
- ・ 同じ高校生でも考えていることや思いも様々だったので、視野を広げることができて嬉しかったです。(90%)

### 【70-89%】

- ・ 海外の人と話せませんでした。もっと自信をつけたいです。(70%)

□ 2日間で一番印象に残ったプログラムは何ですか？その理由を教えてください。

(人)

国際協力計画作り	12
JICA 研修員との交流会	8
国際協力計画発表	4
任意交流会	2
アイスブレイク	1

### 【国際協力計画作り】

- ・ 課題解決に向けてアイデアを整理したり、様々なことに結びついたり、4人の考えをまとめ上げ発表することで達成感がありました。
- ・ 実際、お金や期間などの制約があるので、したいことが全てできるわけではなかったため、様々な視点を持つことが必要だと学ぶことが1番多かったからです。
- ・ JICA 海外協力隊になりたいという気持ちが高まったからです。また、今自分が勉強している意味を理解することができたからです。
- ・ JICA 海外協力隊の方はこんなことを考えながら準備をしていらっしゃるんだと実感

でき、とても勉強になったし、とても楽しかったです。他校の方と2日間を共に過ごしたのもとても良い思い出です。

- ・ 一番自分の中で気づきがあって、このプログラム中で一番学んだことのあるプログラムだったからです。自分たちで考えて、形にすることはとても難しかったけど、とても楽しかったです。

#### [JICA 研修員との交流会]

- ・ 現地の人から、現地のことを聞いて、ネットで情報を得るだけでは分からないことも知れました。人の空気感なども国特有で、これは自分の身体でなければ体験できないことだと思いました。
- ・ 英語を使って話すということが自分にとって新鮮であり、全然知らない国についても知ることができたから、これからの英語学習を頑張ろうと思えました。
- ・ 他国の人と話すことができ、いろいろな文化の違いや食の違いなどを学ぶことができました。それぞれの人が面白い性格をしていて、話すのがとても楽しかったです。

#### [国際協力計画発表]

- ・ 私たちのグループで考えつくことのできない言葉や案、形があり、自分達のグループで学べることができ、他グループでは、プレゼン力や内容の考え方、伝え方を学ぶことができました。
- ・ 自分たちのチームは行いたいことをいくつか出し、それについて細かな作り方や段階を考え、話し合いましたが、発表のときに鋭い角度からの質問がきて、計画を実際に行うには途中で多くの壁にぶつかりそうだなと思いました。

#### [任意交流会]

- ・ 他の学校の人や JICA の人と話すことができました。英検についてたくさん学びました。
- ・ 他の高校の方とたくさん話せたからです。

#### [アイスブレイク]

- ・ 初対面なのにいっぱい話せてうれしかったです。積極的に話しかけて1番交流ができたなと思いました。

#### □ 今後、学校でどのようなことに取り組みたいですか？

- ・ 自分の興味のある教育の分野を調べて、大学の学びにつなげていきたいと思います。
- ・ 元々は主に電気関係のことを頑張ろうと思ったけど、この交流会をしてからもっと国際的なこともして他国について学んでいきたいと思いました。
- ・ まず国際協力について自分が感じたことを伝えたいです。
- ・ 部長としてリーダーシップを発揮したいと思います。国際協力から様々な視点を共有しようと思います。
- ・ 私たちの部活ではSDGs ACTION という宮崎市の企業と高校生と大学生が共にSDGsの問題に取り組むイベントに去年参加し、今年も参加するつもりなので今回学んだことを活かしたいと思います。またエッセイコンテストにも参加する予定です。

- ・ 活動の対象となる住民の方々の目線で一緒にという新たな考え方を得たのでその見方を伝えると共に、その考え方をまずは身近な地域ボランティアに取り入れたいと思います。

□ 他に書きたいこと、伝えたいことがあれば聞かせてください。

- ・ 2日間本当にありがとうございました。とても学びの多い時間でした。絶対アフリカ行きます。
- ・ すっごく楽しく、将来のためになる2日間でした！このプログラムに参加させていただいて本当にありがとうございました。
- ・ この2日間のできるかな、不安だなと思うことがありましたが、いざやってみるととても楽しく、多くの学びがありました。夏休み一番の思い出をつくれてよかったです！
- ・ JICAのスタッフの方が楽しそうに派遣先の国についてお話しされている姿に憧れました。日本国内の問題と結びつけながらスキルアップしていきたいです。

## 1日目（教員用） 回答者数7名

各プログラムのご感想・ご意見・改善点などをご自由にご記入ください。

### [アイスブレイク・自己紹介]

- ・ 各県各学校のことが知れてよかった。それぞれの地域についてももっと知りたくなる内容でした。
- ・ どの県の高校生も積極的に話しかけることができおり、学校紹介も短時間でわかりやすく説明ができていました。人前で話す機会もあってとても良かったです。
- ・ フレンドリーな雰囲気を最初に作っていただいたので、後の活動が活発になれたと思います。
- ・ 活動内容がシンプルで、なおかつ会話も広がるゲームであったので、短時間で場と人に馴染むことができました。

### [国際協力計画作り]

- ・ 普段の探究的な学びを活かせる内容だったと思います。
- ・ 時間がたつごとに話し合いが深まっていき、様々な意見が交換されていたと思います。実際には短い時間でしたので、明日どの位進めることができるのだろうと思っています。設定そのものもおもしろいと思います。
- ・ 今までに学校でも考えることがなかったような難しいテーマなので、生徒も解決法が何をすべきかがわからず悩んでいるようでした。しかし、それで困るというよりはなんとか良いアイデアがないかとグループで意見を出し合っている様子が見えたので、とても良い活動になったと思います。
- ・ 生徒たちが今日初めて会う人たちに混じった中で、積極的に参加しようとする姿が印象に残りました。シミュレーションでも、どうすれば良いかを真剣に考えている所が素晴らしいと思いました。

### [各県先生方との意見交換（JICA 九州の事業紹介）]

- ・ 国際異文化交流のみならず、学校ごとの取組みやカリキュラムなど、他県に関して幅広い情報交換ができてよかったです。
- ・ 北九州・南九州グループ（の意見交換）だけでなく、もう一ローテーションがあると、多様な取組みが共有できたと思います。
- ・ 各県の事情を知ることができ参考になりました。高校生の体験プログラム以外にも JICA 九州の事業があるので、持ち帰って共有しようと考えています。これまでの高校と JICA との共同での実践例を聞いてみたいと思いました。
- ・ どの高校も探究活動や国際交流の内容で悩んでいるという話を聞き、同じことを考えている先生がいることがわかり、とても励みになりました。学校内で温度差があるというのはどの学校も同じですが、目の前の生徒の意欲を高めるための活動や計画は今後も積極的に取り入れていきたいと思います。

### [JICA 研修員との交流会]

- ・ 言語や文化が様々で生徒達は興味深く聞いていました。研修員が何を学びに来たのか、日本についてどう思っているのかをじっくり聞いてみたいと思いました。
- ・ とても興味深かったです。英語や外国語を使う場面があって程よい緊張感と達成感もあったと思います。
- ・ 本校の ALT がフィリピン出身の方なので、研修員さんの話は身近に感じられたと思います。そのことが大切で、新しく知った国についてもっと興味を持ってもらえたら嬉しいです。
- ・ 皆さんが終始和やかな雰囲気を作ってもらって良かったと思います。様々な文化に直に触れる良い機会でした。

### [その他]

- ・ JICAFe（JICA 九州内の食堂）では、他国の料理を食べ、日本とは味付けが違うことに改めて文化の違いを実感しました。

## 2 日目（教員用） 回答者数 7 名

各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

### [朝のウォームアップ体操]

- ・ 動画に出ていた現地の人達の体操のクオリティが高く感じました。日本の高校生も負けてられない…。
- ・ 挨拶をし、体操をして、気持ちよく一日を迎えることができました。
- ・ アラビア語のラジオ体操は新鮮でいいリフレッシュになりました。また顔を見て大きな声であいさつをするのはいいですね。
- ・ アラビア語のラジオ体操第一がとても新鮮で良かったです。

### [国際協力計画作り・計画発表]

- ・ 計画の内容だけでなくプレゼンの方法にも工夫が見られ、どのグループもよく考え

て発表ができていたと思います。欲を言えば、手洗い・歯磨き・食事の改善といった保健・衛生面に関する計画ばかりだったので、独自性のある計画が出て欲しかったと思います。

- ・それぞれの班でアイデアを出せていました。ポスターを作るのも短時間で仕上げていたの、よく頑張っていたと思います。質疑にも話し合いながら応答できていて頑張っていました。
- ・みな真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。出来上がった内容に偏りが見られた点が意外でした。世相を反映しているのか、それとも経験によるものなのか分かりませんが、もう少しバラエティがほしかったです。
- ・高校生はこちらが思っている以上に、発想力が豊かだと感じました。また、自ら課題を見つけ、解決に向け前向きに取り組む生徒の姿は、普段学校では見ることのできない姿で、こちら側の仕掛けも大切だと感じました。

## 2 日間のプログラムを通じて

### 1. 2日間を通してこのプログラムの満足度は\_\_\_\_\_パーセント

(人)

100%以上	4
90-99%	3
89%以下	0

#### 理由：

- ・他校の生徒との関わりが多く、たくさんの刺激をもらえたと思います。本人たちが思っている以上の学びができました。(100%)
- ・生徒にとって漠然としたイメージしかなかった国際協力というものが、具体的なイメージを持つものとなったと思います。県外の仲間ができたこともまたとない機会になりました。(100%)
- ・生徒たちが一生懸命に取り組んでいたのが良かったです。もう1日あったら研修員の方々ともっと話をするのができたのかなと思いました。またそれは派遣依頼等をしたかったです。(90%)

### 2. 全体の流れ、時間配分は適切でしたか？

(人)

適切だった	7
適切ではなかった	0

#### 理由：

##### 【適切だった】

- ・じっくり計画作りができていました。途中でスタッフの方々にも相談する時間もあり考えの幅も広がったと思えました。
- ・進行がとてもスムーズでムダな時間が無かったし、時間が足りなかったり余ったり

することもなかったからです。

- ・ 国際協力計画作りの程よいタイミングで様々な企画が入り、集中力が切れない計画になっていました。全体・各班での活動のバランスがよかったです。

### 3. 今後の高校生国際協力実体験プログラムのため、改善点がございましたらご記入ください。

- ・ せっかく交流しながら仲を深めていたので、2泊3日でもう1つ何かすることができたらなお良いかと思いました。
- ・ あと少しでいいから、今世界でどのような支援が求められているかについて、知識のインプットをしてあげたら、計画のバラエティも増えるのではとないかと思いました。
- ・ 体操やかまど作りなど、実際に協力隊の活動をやってみると座学ばかりにならず楽しいかもしれません。研修員に日本の文化を紹介する活動等も良いかもしれません。
- ・ 改善点というほどではありませんが、昼食・夕食の中に辛すぎて食べられないものがあったので、「辛いメニューマーク」等をつけて分かるようにしておくとうまいかと思えます。

### 4. 今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことをご記入ください。

- ・ 学校の代表として参加してもらった4名なので、今回の活動内容や得られた経験について2学期の報告会で2学年生徒の前で発表をしてもらう予定です。
- ・ 国際コースの生徒たちが参加しているので、1～3年の合同授業での発表する予定です。作成したポスターを使っただけの簡単なレポート作成、全クラスへの配布も行う予定です。
- ・ 文化祭で学んだことの発表や、大学調べを国際協力の観点からできると思えます。
- ・ 県内の留学生との交流や、市内の外国人との交流を考えています。

### 5. JICA の教育支援に今後どのようなことを期待しますか。

- ・ 現在、高校現場では「探求活動」の内容をどうするかで悩んでいるところが多いと思えます。1年間ほどのスパンで学校と連携して探究活動作りを行うなどは需要があると思えます。
- ・ 海外研修や部活動における活動のための事前研修等を期待します。
- ・ 県内外の諸々の大学や団体と本校を繋いでもらえるようなご支援や、JICA 研修員と本校生徒の連携などを期待します。
- ・ JICA 海外協力隊の人材発掘（JICA に関わるためには？など。工業系・農業系・情報系・商業系の学校の参加）を期待します。また、産学・高大接続の結節点となることを期待します。

